里山学研究センター全体会

――各研究員による研究紹介及び研究の進捗状況に関する報告――

龍谷大学政策学部・准教授 里山学研究センター・センター長
谷垣　岳人

Ⅰ．はじめに

森のある大学 龍谷大学里山学研究センターは、2023年８月31日（木）に本研究センター所属の研究員・客員研究員・研究フェローとの間で全体会を開催した。

Ⅱ．概要

本全体会の概要は、次の通りである。

【日　時】2023年８月31日（木）13時00分～17時00分

【場　所】和顔館B110教室／オンライン（Zoom）（対面・オンライン併用）

【参加者】谷垣岳人氏（龍谷大学政策学部・准教授 里山学研究センター・センター長）、中川晃成氏（龍谷大学先端理工学部・講師 里山学研究センター・副センター長）、村澤真保呂氏（龍谷大学社会学部・教授 里山学研究センター・研究員）、鈴木龍也氏（龍谷大学法学部・教授 里山学研究センター・研究員）、吉岡祥充氏（龍谷大学法学部・教授 里山学研究センター・研究員）、渡邊洋之氏（龍谷大学農学部・教授 里山学研究センター・研究員）、丹野研一氏（龍谷大学文学部・准教授 里山学研究センター・研究員）、石塚武志氏（龍谷大学法学部・准教授 里山学研究センター・研究員）、金紅実氏（龍谷大学政策学部・准教授、里山学研究センター・研究員）、榎並ゆかり氏（龍谷大学政策学部・助手 里山学研究センター・研究員）、秋山道雄氏（滋賀県立大学・名誉教授 里山学研究センター・客員研究員）、西脇秀一郎氏（愛媛大学法文学部・准教授 里山学研究センター・客員研究員）、須川恒氏（里山学研究センター・客員研究員）、滋野哲秀氏（里山学研究センター・客員研究員）、占部武生氏（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）、好廣眞一氏（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）、猪谷富雄氏（県立広島大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）、田中滋氏（龍谷大学・名誉教授 里山学研究センター・研究フェロー）、太田真人氏（里山学研究センター・博士研究員）、眞田章午氏（里山学研究センター・研究補助員）

Ⅲ．内容

本全体会は、谷垣岳人氏（龍谷大学政策学部・准教授 里山学研究センター・センター長）の司会のもと、参加者が各々の研究を紹介するとともに研究の進捗状況に関して報告し、適宜、

意見交換を行った。

各研究員の研究内容は次の通りである。京丹後地域の田んぼを中心とした地域づくりに関する研究（谷垣氏）、景観情報学の観点からのデータ整備（中川氏）、里山資源の地域住民を中心とする自律的な保存・利用・管理の枠組みとそれへの政策的な支援のあり方（東近江市・豊田市事例）（鈴木氏）、里山の利用管理に重要な役割を担ってきた入会権について、入会権理論のあり方の再検討（吉岡氏）、生物多様性の保全と持続的利用を実現するための枠組みの検討（石塚氏）、里山の観点から瀬田キャンパスの活性化（渡邊氏）、ラムサール条約湿地・世界遺産「セネガル共和国サルーム・デルタ」沿岸村落におけるアフリカ的里山モデルに関する検討（榎並氏）、里山研のこれまでの活動を整理した上で、生物多様性をめぐる実態・政策・研究の現状と課題の整理、ニュー・エコロジーの射程と可能性について（オズワルド・シュミッツ）、既往の環境研究と対比しつつ検討等（秋山氏）、里山における管理主体に関する研究－地域コミュニティにおける法主体の役割（認可地縁団体制度、地域運営組織、地域自治組織）（西脇氏）、ラムサール条約に係る実践的活動研究（須川氏）、気象関係からみた里山、学校を基盤とするシチズンサイエンスとその効果に関する研究（滋野氏）、新方式触媒による薪ストーブ燃焼ガス中COガスに低減に関する研究を中心に酸化チタン等を使ってこれまでとは異なる触媒の生成活動（占部氏）、自然学校、城陽生きもの調査隊、ニホンザルの奇形多発地の現在に関する研究（好廣氏）、多様なイネ品種を活用した里山保全、環境教育、食育、地域起こしに関する研究（猪谷氏）、モノ（自然）と人の関係の認識のために－＜存在の論理＞、インカーネーション、そしてオーソプラクシー－に関する研究（田中氏）、愛知川の砂礫河原に生息するカワラバッタという種の生息環境に関する研究を中心にカワラバッタの研究、トウヨシノボリの生態研究（太田氏、遊磨氏との共同研究も含む）、台湾の国立政治大学での国外研究（金氏）。

本全体会では、本研究センターの特徴である文理融合型の研究に富んだ様々な研究方針が示された。

（報告：眞田 章午（里山学研究センター・研究補助員））